

高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第48週（11月28日～12月4日）

★お知らせ

○咽頭結膜熱に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第47週の1.00から第48週は0.70と減少していますが、幡多で増加し、高知市で注意報値を超えています。高知市では第44週まで9週連続で注意報値を超えた後、第45週は一旦注意報値を下回っていましたが、再び増加した後3週連続して注意報値を超えており、報告の多い状態が継続しています。

定点医療機関からの報告は1～3歳が全報告の71.4%、6歳以下で100%を占めるなど乳幼児の報告が多い傾向にあります。

また、定点医療機関からのホット情報でもアデノウイルス感染症として9例の報告があるなど、アデノウイルスを原因とする感染症の報告が増加しており注意が必要です。

咽頭結膜熱の主な症状は、発熱・咽頭炎・結膜炎で、その他に、リンパ節の腫れ、腹痛、下痢等が生じることもあります。

感染力は強く、通常は患者の咳やくしゃみ等のしぶきに含まれるウイルスによる飛沫感染、あるいは、ウイルスが付着した手やタオル等の患者が触れたものを介した接触感染により結膜あるいは上気道から感染します。

以下のことに気を付け、感染予防に努めましょう。

- 1) 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- 2) 感染者との密接な接触は避けましょう。
- 3) タオル等は別のものを使い、共用しないようにしましょう。

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第47週の0.10から第48週では0.48と急増しました。須崎、高知市、幡多（今期初）、中央西から報告があり、須崎では2.50と、流行開始の目安とされている1.00を上回っています。迅速検査ではインフルエンザA型が95.6%、B型が4.4%となっています。

全国では定点医療機関当たりの報告数が第46週に1.38と1.00を超え、第47週は1.79と引き続き増加傾向にあるうえ、過去5年間の同時期と比較しても報告数が多い状態であることから注意が必要です。

全国の今シーズンの検出状況は第47週時点でA(H3)香港型が85.9%、A(H1)pdm09型が11.3%、B型が2.8%となっています。

これからの時期は空気も乾燥し、インフルエンザウイルスが活動しやすい時期となります。

インフルエンザの感染力は大変強く、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することから、集団生活の場では特に注意が必要です。

予防対策としては手洗い、咳エチケットのほか予防接種がありますので、かかりつけ医療機関にお尋ねください。

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多
休校	第48週	0	0	0	0	0	0
	累計	0	0	0	0	0	0
学年閉鎖	第48週	0	0	0	0	0	0
	累計	0	1	0	0	0	0
学級閉鎖	第48週	0	0	0	0	0	0
	累計	0	0	0	0	0	0

インフルエンザ予防接種は、お早めに！

インフルエンザワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、約2週間かかり、約5ヶ月程度持続すると言われていたことから、12月頃までに接種を完了することが望まれます。予防接種には、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められています。

インフルエンザの飛沫感染対策【咳エチケット】

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- (1) 普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- (2) 咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- (3) 手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。 等

■ 飛沫感染対策ではマスクは重要です。特に感染者がマスクをすることが、感染の拡散を抑える効果が高いと言われています。

- 厚生労働省 「平成28年度今冬のインフルエンザ総合対策について」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

- 厚生労働省 「平成28年度インフルエンザ Q&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第47週の4.77から第48週では5.73と増加しています。中央西、中央東、幡多、須崎、高知市で増加しています。定点医療機関からのホット情報ではノロウイルス3例、カンピロバクター5例、サルモネラが1例の報告があり、感染症情報収集システム※でも24例の報告があるなど報告数の多い状態であることから、注意が必要です。病原体検出情報では臨床診断名が感染性胃腸炎として第48週に搬入された検体からNorovirus GIIとSapovirusが、第47週に搬入された検体からはCoxsackievirus A2が報告されています。

全国の定点医療機関当たり報告数は第47週が12.85と2週連続して注意報値を超えており、また警報値を超えている都道府県が3、注意報値を超えている都道府県が14と、報告数が多い状態が続いています。

感染性胃腸炎は、病原体により異なりますが、通常1～3日の潜伏期間の後発症し、吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛を主症状とする、細菌あるいはウイルスなどによる感染症で特別な治療法は無く、治療は症状に応じた対症療法となります。乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので早めに医療機関を受診することが大切です。

例年、秋から冬にかけてノロウイルス、ロタウイルスなどのウイルス感染による感染性胃腸炎の報告数が増加します。

特にノロウイルスを原因とする場合、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあるため注意が必要です。

予防対策のため、帰宅時や調理前・食事前、トイレの後に石けんでよく手を洗いましょう。また、感染した人の便やおう吐物には、直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用法を確認したうえで使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処分しましょう。）調理をする場合は、十分加熱しましょう。

- 厚生労働省 「ノロウイルスに関する

Q&A」 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/ka_nren/yobou/040204-1.html

- 衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

基幹定点当たりの報告数は第47週の1.13から第48週では1.13と横ばいですが、定点医療機関からのホット情報で29例、感染症情報収集システム※では37例の報告があるなど、先週に引き続き報告数の多い状態が続いていることから、注意が必要です。

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによって起こる呼吸器感染症で、幼児期から学童期によく見られます。2～3週間と比較的長い潜伏期間を経てまず発熱、全身倦怠感、頭痛などの初期症状が現れます。その後、頑固な咳嗽がみられ、この咳は解熱後も3～4週間続きます。重症化すると中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を生じることがあります。

感染経路は患者の咳のしぶきを吸いこんだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での伝播がみられます。

予防対策としては、手洗いと咳エチケットです。

※ 感染症情報収集システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

○水痘に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第47週の0.80から第48週は1.70と急増しています。注意報基準値である4.0には達していませんが、平成26年以降では最も多い報告数となっており、注意が必要です。

中央西、高知市、中央東、幡多、須崎で増加しています。

水痘は、水痘帯状疱疹ウイルスによる感染症で、一般には「みずぼうそう」と呼ばれています。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛まつ感染、水疱や粘膜の排出物に接触することによる接触感染により感染します。

潜伏期間は2～3週間程度で、軽症で終生免疫（一度の感染で生涯、その感染症にはかからない）を得ることが大半ですが、成人では髄膜炎や脳炎などの合併症の頻度が高くなるなど、重症化することもあります。またウイルスが治癒後、体内に潜伏しており、何年も経て「帯状疱疹」として再発することもあります。

有効な予防対策は予防接種です。2014年10月1日から水痘ワクチンが定期接種となっています。

また、水痘患者に接触した場合でも、72時間以内にワクチンを接種すれば発病を予防したり、症状を軽減することが期待できるとされています。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが、つつが虫病はツツガムシというわずか0.3mmほどのダニの幼虫が媒介する感染症です。

すべての、ダニやツツガムシが病原体を持っているわけではありませんが、これらのダニに咬まれないようにすることが感染の予防になりますので引き続き、注意が必要です。予防するためのワクチン等はありません。

マダニやツツガムシは野外に生息しています。野山や畑、草むらなどに出かけるときは十分注意しましょう。長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、ダニ用の忌避剤を使用する等して、ダニに咬まれないようにしましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

- 高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

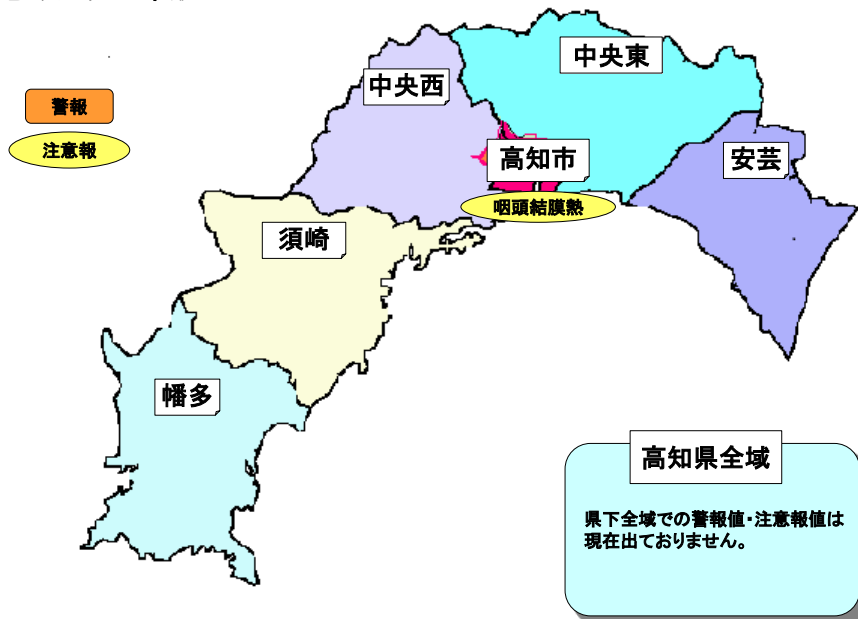
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
 48週（11月28日～12月4日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	5.73	中央西、中央東、幡多、須崎、高知市で増加しています。
水痘	↑	1.70	中央西、高知市、中央東、幡多、須崎で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.67	須崎、高知市、中央西、幡多で増加しています。
RSウイルス感染症	↗	1.03	幡多、須崎、高知市で増加しています。
咽頭結膜熱	↘	0.70	幡多で増加し、高知市では注意報値を超えています。

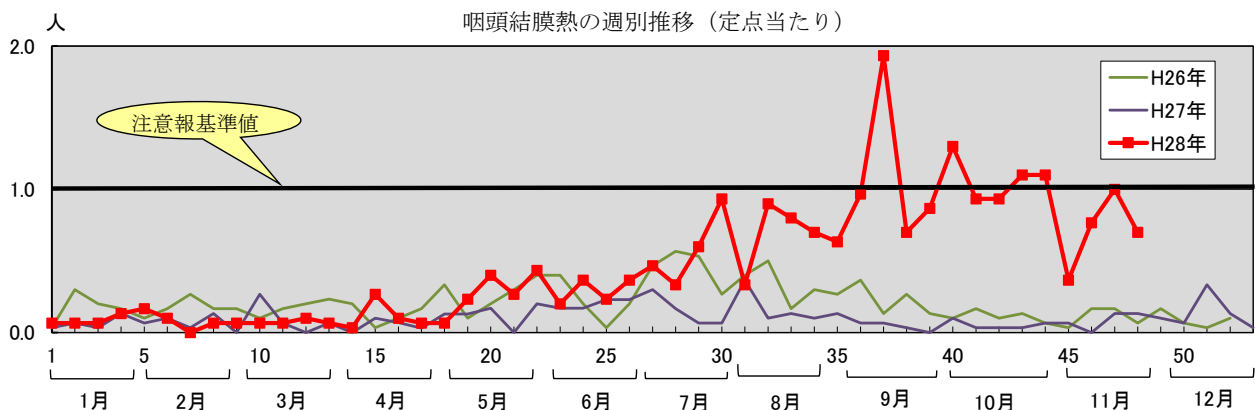
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

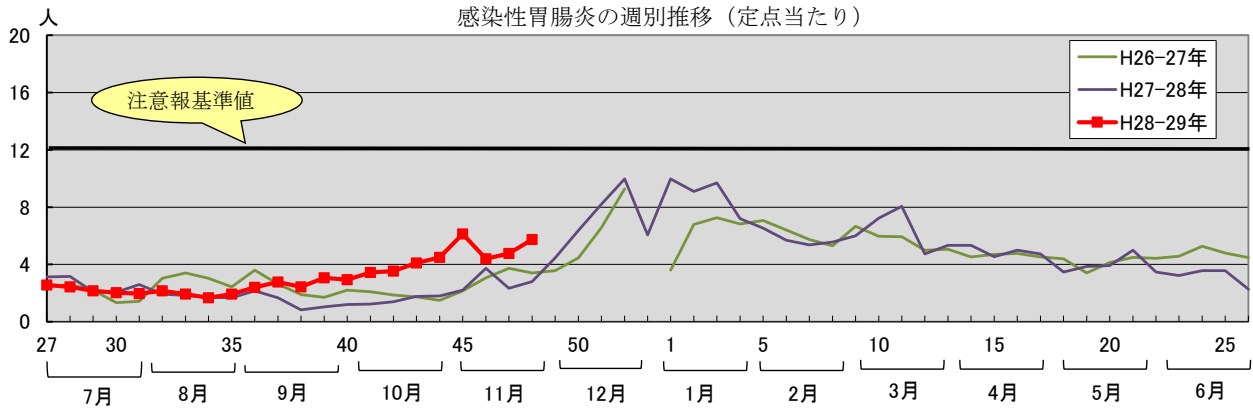
○咽頭結膜熱 第48週： 0.70（注意報値：1.00 警報値：3.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.70（前週：1.00）と減少していますが、幡多 0.20（前週：0.00）で増加し、高知市では 1.27（前週：2.00）と減少しましたが、注意報値を超えています。



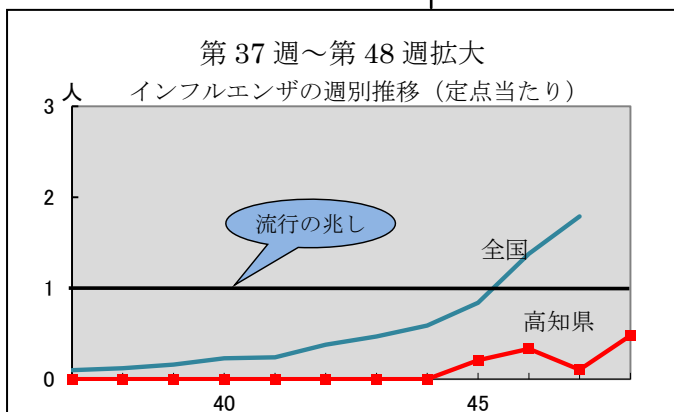
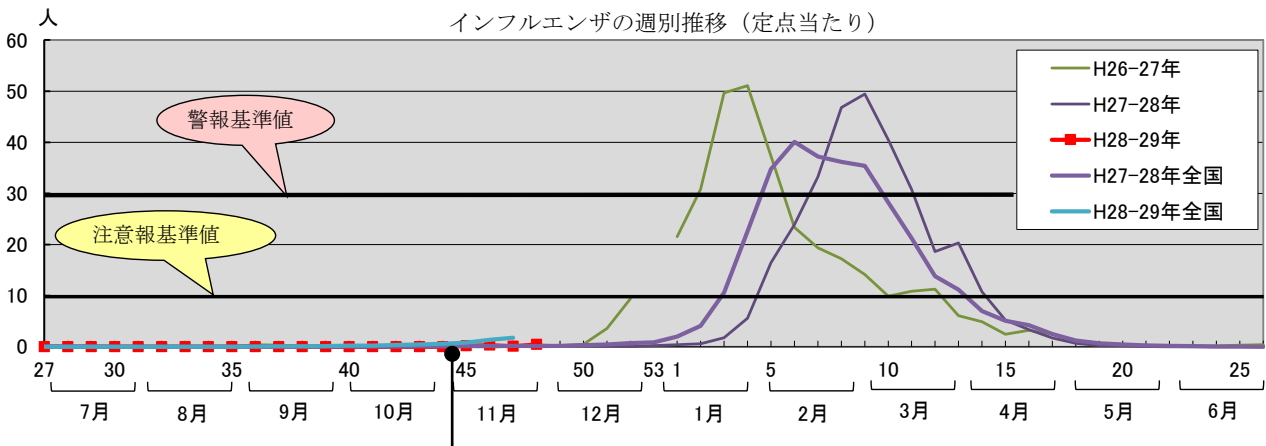
○感染性胃腸炎 第48週：5.73 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 5.73 (前週：4.77) と増加し、中央西 8.00 (前週：5.67)、中央東 7.00 (前週：6.57)、幡多 6.00 (前週：2.80)、須崎 5.50 (前週 5.00)、高知市 5.09 (前週 4.64) で増加しています。



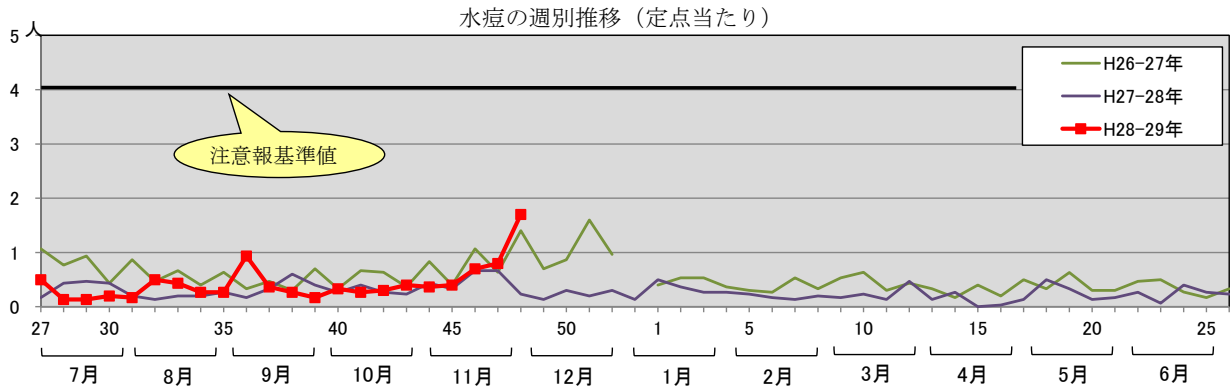
○インフルエンザ 第48週：0.48 (注意報値：10.00 警報値：30.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.48 (前週 0.10) と急増しています。須崎 2.50 (前週 0.25)、高知市 0.63 (前週：0.06)、幡多 0.25 (0.00) で増加しています。



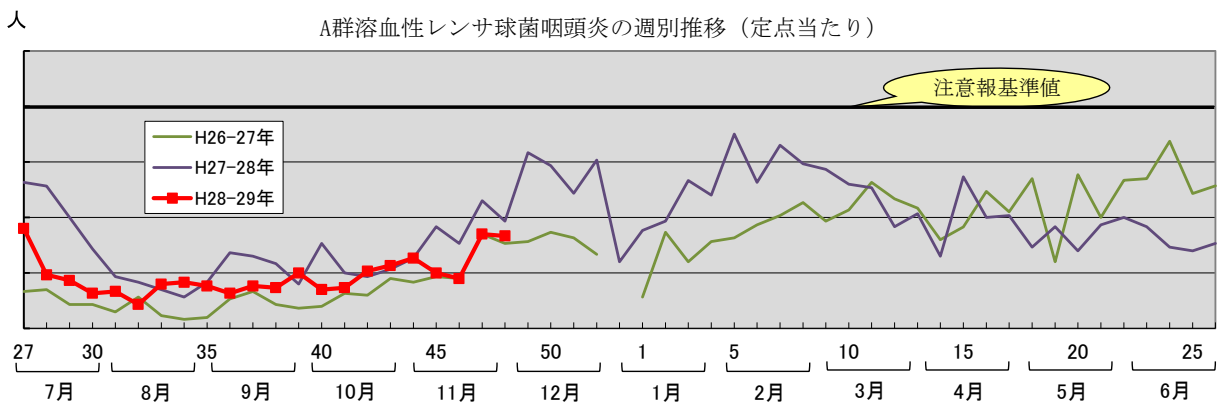
○水痘 第48週：1.70 (注意報値：4.00 警報値：7.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.70(前週：0.80)と急増しています。中央西3.00(前週：1.33)、高知市2.45(前週：1.36)、中央東1.29(前週：0.71)、幡多1.00(前週：0.00)、須崎0.50(前週：0.00)で増加しています。



○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第48週：1.67 (注意報値：4.00 警報値：8.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.67(前週：1.70)とほぼ横ばいですが、須崎3.00(前週：1.50)、高知市2.64(前週：2.55)、中央西2.33(前週：1.33)、幡多0.40(前週：0.20)で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H25-H26年とH26-H27年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
48	感染性胃腸炎	1	女	高知市	Norovirus GII NT
48	感染性胃腸炎	3	男	須崎	Sapovirus genogroup unknown

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
46	-	7	男	中央東	Human herpes virus 7
47	感染性胃腸炎	2	男	須崎	Coxsackievirus A2
47	-	1	男	幡多	Human herpes virus 6

★全数把握感染症

第 48 週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	117	60歳代男	高知市
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	20	80歳代女	中央東

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	あけぼのクリニック	マイコプラズマ感染症3例（8歳、9歳、17歳）
	おひさまこどもクリニック	水痘2例（6歳男、7歳男：いずれも予防接種1回済）
		ムンプス5例（うち1例は予防接種済）
	早明浦病院小児科	マイコプラズマ肺炎3例（3歳女、4歳女、9歳男）
	いちはら内科小児科	カンピロバクター(+)1例（18歳男）
野市中央病院小児科	マイコプラズマ肺炎1例（8ヶ月女）	
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス感染症6例（2歳、3歳3人、4歳2人）
		マイコプラズマ肺炎12例（2歳、3歳、6歳、8歳2人、9歳3人、11歳2人、14歳、15歳）
		カンピロバクター腸炎2例（3歳女、10歳男）
		ノロウイルス腸炎1例（1歳男）
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザA型1例（6歳男：ワクチン1回接種）
		伝染性紅斑3例（1歳女、6歳女、7歳女）
		溶連菌感染症7例
		マイコプラズマ気管支炎1例（8歳男）
		水痘5例（保育園で流行している地域ある。）
	細木病院小児科	ノロウイルス2例（1歳女、3歳男）
	三愛病院小児科	マイコプラズマ肺炎4例（2歳男2人、6歳男、7歳男）
アデノウイルス感染症2例（1歳男、9歳男）		
高知医療センター小児科	RSウイルス感染症5例（0ヶ月男、5ヶ月女、9ヶ月女、2歳男女）	
	A群レンサ球菌1例（3歳男）	
	サルモネラ1例（5歳女）	
中央西	石黒小児科	水痘3例（1歳男女、3歳女：3例ともワクチン2回接種済み）
		水痘2例（2歳男、4歳男：2例ともワクチン1回接種済み）
		ヘルペス性歯肉口内炎1例（3歳女）
		アデノウイルス感染症1例（8歳男）
	くぼたこどもクリニック	マイコプラズマ肺炎1例（9歳女）
須 崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎3例（1歳、2歳、4歳）
		インフルエンザA型3例
		マイコプラズマ肺炎1例（7歳男）
		マイコプラズマ肺炎2例（9歳、10歳※47週検出）
		カンピロバクター腸炎2例（※47週検出）
幡 多	さたけ小児科	マイコプラズマ2例（10歳女、11歳男）

★全国情報

第46号（11月14日～11月20日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核348例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症44例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎2例、つつが虫病57例、デング熱2例、日本紅斑熱5例、マラリア2例、レジオネラ症31例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症23例、急性脳炎4例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群17例、侵襲性インフルエンザ菌感染症3例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症28例、水痘（入院例に限る）2例、梅毒69例、播種性クリプトコックス症5例、破傷風2例、風しん2例、麻しん1例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、E型肝炎2例、つつが虫病7例、日本紅斑熱2例、レジオネラ症12例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症20例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、水痘（入院例に限る）3例、梅毒48例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第48週 平成28年11月28日(月)～平成28年12月4日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第48週							計	前週	全国(47週)	高知県(48週末累計)		全国(47週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H28/1/4～H28/12/4				H28/1/4～H28/11/27			
インフルエンザ	インフルエンザ				10	1	10	2	23 (0.48)	5 (0.10)	8,843 (1.79)	14,981 (312.10)	1,614,700 (326.93)			
小児科	咽頭結膜熱		6	14			1	21 (0.70)	30 (1.00)	1,180 (0.37)	673 (22.43)	60,268 (19.10)				
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6	29	7	6	2	50 (1.67)	51 (1.70)	6,596 (2.09)	2,309 (76.97)	331,305 (105.01)				
	感染性胃腸炎	2	49	56	24	11	30	172 (5.73)	143 (4.77)	40,607 (12.85)	6,346 (211.53)	848,676 (268.99)				
	水痘		9	27	9	1	5	51 (1.70)	24 (0.80)	1,883 (0.60)	470 (15.67)	55,795 (17.68)				
	手足口病			5				5 (0.17)	2 (0.07)	2,212 (0.70)	348 (11.60)	62,220 (19.72)				
	伝染性紅斑		1	10				14 (0.47)	7 (0.23)	403 (0.13)	337 (11.23)	49,534 (15.70)				
	突発性発疹	1	2	5				10 (0.33)	10 (0.33)	1,342 (0.42)	495 (16.50)	70,303 (22.28)				
	百日咳							()	3 (0.10)	39 (0.01)	110 (3.67)	2,797 (0.89)				
	ヘルパンギーナ							1 (0.03)	6 (0.20)	412 (0.13)	783 (26.10)	128,006 (40.57)				
	流行性耳下腺炎		13	6				19 (0.63)	19 (0.63)	3,110 (0.98)	904 (30.13)	144,468 (45.79)				
RSウイルス感染症		2	11			5	13	31 (1.03)	21 (0.70)	3,222 (1.02)	1,034 (34.47)	91,984 (29.15)				
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	5 (0.01)	()	363 (0.53)				
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	1 (0.33)	489 (0.71)	20 (6.67)	23,788 (34.43)				
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	8 (0.02)	10 (1.25)	462 (0.97)				
	無菌性髄膜炎							()	()	28 (0.06)	34 (4.25)	1,275 (2.69)				
	マイコプラズマ肺炎			7			2	9 (1.13)	9 (1.13)	463 (0.98)	305 (38.13)	17,246 (36.38)				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	1 (0.13)	15 (0.03)	30 (3.75)	324 (0.68)				
	感染性胃腸炎							()	2 (0.25)	8 (0.02)	239 (29.88)	5,133 (10.83)				
計(小児科定点当たり人数)		3 (1.50)	88 (12.59)	181 (15.44)	41 (13.53)	34 (14.50)	60 (11.45)	407 (12.94)		70,865	29,428 (772.40)	3,508,647				
前週(小児科定点当たり人数)		6 (3.00)	89 (12.65)	160 (13.32)	33 (10.73)	21 (10.25)	25 (5.00)		332 (10.63)							

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第48週							計	前週	全国(47週)	高知県(48週末累計)		全国(47週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H28/1/4～H28/12/4				H28/1/4～H28/11/27			
インフルエンザ	インフルエンザ				0.63	0.20	2.50	0.25	0.48	0.10	1.79	312.10	326.93			
小児科	咽頭結膜熱		0.86	1.27				0.20	0.70	1.00	0.37	22.43	19.10			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.86	2.64	2.33	3.00	0.40	1.67	1.70	2.09	76.97	105.01				
	感染性胃腸炎	1.00	7.00	5.09	8.00	5.50	6.00	5.73	4.77	12.85	211.53	268.99				
	水痘		1.29	2.45	3.00	0.50	1.00	1.70	0.80	0.60	15.67	17.68				
	手足口病			0.45				0.17	0.07	0.70	11.60	19.72				
	伝染性紅斑		0.14	0.91				0.60	0.47	0.23	0.13	11.23	15.70			
	突発性発疹	0.50	0.29	0.45				0.40	0.33	0.33	0.42	16.50	22.28			
	百日咳									0.10	0.01	3.67	0.89			
	ヘルパンギーナ							0.03	0.20	0.13	26.10	40.57				
	流行性耳下腺炎		1.86	0.55				0.63	0.63	0.98	30.13	45.79				
RSウイルス感染症		0.29	1.00			2.50	2.60	1.03	0.70	1.02	34.47	29.15				
眼科	急性出血性結膜炎										0.01	0.53				
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	0.71	6.67	34.43				
基幹	細菌性髄膜炎										0.02	1.25	0.97			
	無菌性髄膜炎										0.06	4.25	2.69			
	マイコプラズマ肺炎			1.40			2.00	1.13	1.13	0.98	38.13	36.38				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								0.13	0.03	3.75	0.68				
	感染性胃腸炎								0.25	0.02	29.88	10.83				
計(小児科定点当たり人数)		1.50	12.59	15.44	13.53	14.50	11.45	12.94			772.40					
前週(小児科定点当たり人数)		3.00	12.65	13.32	10.73	10.25	5.00		10.63							

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869